

金山町立金山中学校 第7号

学校だより

令和6年12月23日発行
発行責任者:金山中学校長

実りの多かった、2学期が終了。そして充実の冬へ!

今年は、猛暑の夏の影響からか、なかなか気温も下がらず、秋らしい雰囲気もあまり感じることもなく10月、11月、12月と過ぎ、早くも2学期が終わろうとしています。只見川沿いの木々もようやく色づいたと思ったら、紅葉の盛りも過ぎ、あっという間に雪景色となってしまいました。

先日の全校集会で、「二十四節気」の一つである「冬至」について話したところ、言葉は知っていても今ひとつピンとこない生徒が多かったように感じました。「冬至」は「冬に至る」と書くように、いよいよ冬本番といったところでしょうか。今年の「冬至」は12月21日でした。昨今の、これまであまり経験のない異常な気象のことを考えると、生徒たちがあまりピンとこないのも無理もないかもしれません。これまで四季折々の風景を楽しむことができていた日本人にとっては少し寂しい気がします。来年はゆっくり紅葉を楽しみたいところです。

さて、そんな2学期でしたが、金山中生の皆さんにとっては多くの収穫があった、実りの多い学期でした。県下小中学校音楽祭での銀賞受賞を始め、県英弁大会、全会津駅伝大会、全会津新人バドミントン大会、そして福島駅伝など、各種大会での活躍には、目を見張るものがありました。

また、感想文コンクールや、美術分野での秀作審査会、税の標語コンクールなどで表彰を受けるなど、金山中学校の活躍は素晴らしかったと思います。



文化祭では、「百花斉放～15人の絆を信じて～」をテーマに、文化祭実行委員を中心に企画を練り準備を進めました。その努力の甲斐があり、創意工夫を凝らした素晴らしい内容の文化祭でした。開閉会で演奏させていただいた金中太鼓、生徒自身が考えた台本による、演劇仕立てでの学年発表など、笑いや、特別ゲストの出演を織り交ぜたとても工夫された中身の濃い発表でした。

3年生が実施した「保育所訪問」では、3年生全員で川口保育所を訪問し合唱を披露したり、園児たちと一緒にレクリエーションを行ったりと、とても楽しい時間を過ごしました。園児との交流の中で3年生は、たくさんのことを学んだと思います。2年生の「川口高校体験入学」では、身近な高校を訪問し、体験を通じて、高校生活の一端を学ぶことができました。また、全校で参加した、「超スマート社会を担う産業育成事業」と題して若松商業高校で行われた高等学校訪問では、コンピュータプログラム体験や、商品のラッピング体験、簿記の体験など、中学校では経験できない貴重な体験ができました。地域の方々や関係機関の方々のご協力によりその他様々な体験をさせていただき、収穫の多い2学期だったと思います。



いよいよ冬休みを迎えます。

2年生は、次年度に迎える進路目標実現へ向けての大切な準備がいよいよ始まります。まずは、自分自身のできるだけ明確な目標を持ってもらえればと思います。そして、それに向けて何が今の自分に必要なのかを考え、準備を始めてほしいと思います。

3年生は言うまでもなく、中学校生活も残り3ヶ月を切りました。今がとても大切な時です。進路の目標が明確になった人は、脇目も振らずその目標へ向けて邁進してほしいと思います。まだ、進路について迷いのある人は、しっかりと考え、そして目標を見定め、この冬は、迷うことなく充実した取り組みができることを願っています。